episode 0

#1

マスターの気まぐれアクション

#2

青空喫茶とそこに生まれた芝生

#3

週末は人が集まる芝生広場

#4

誰かが気ままに集まり、
気ままに過ごす開放された道へ

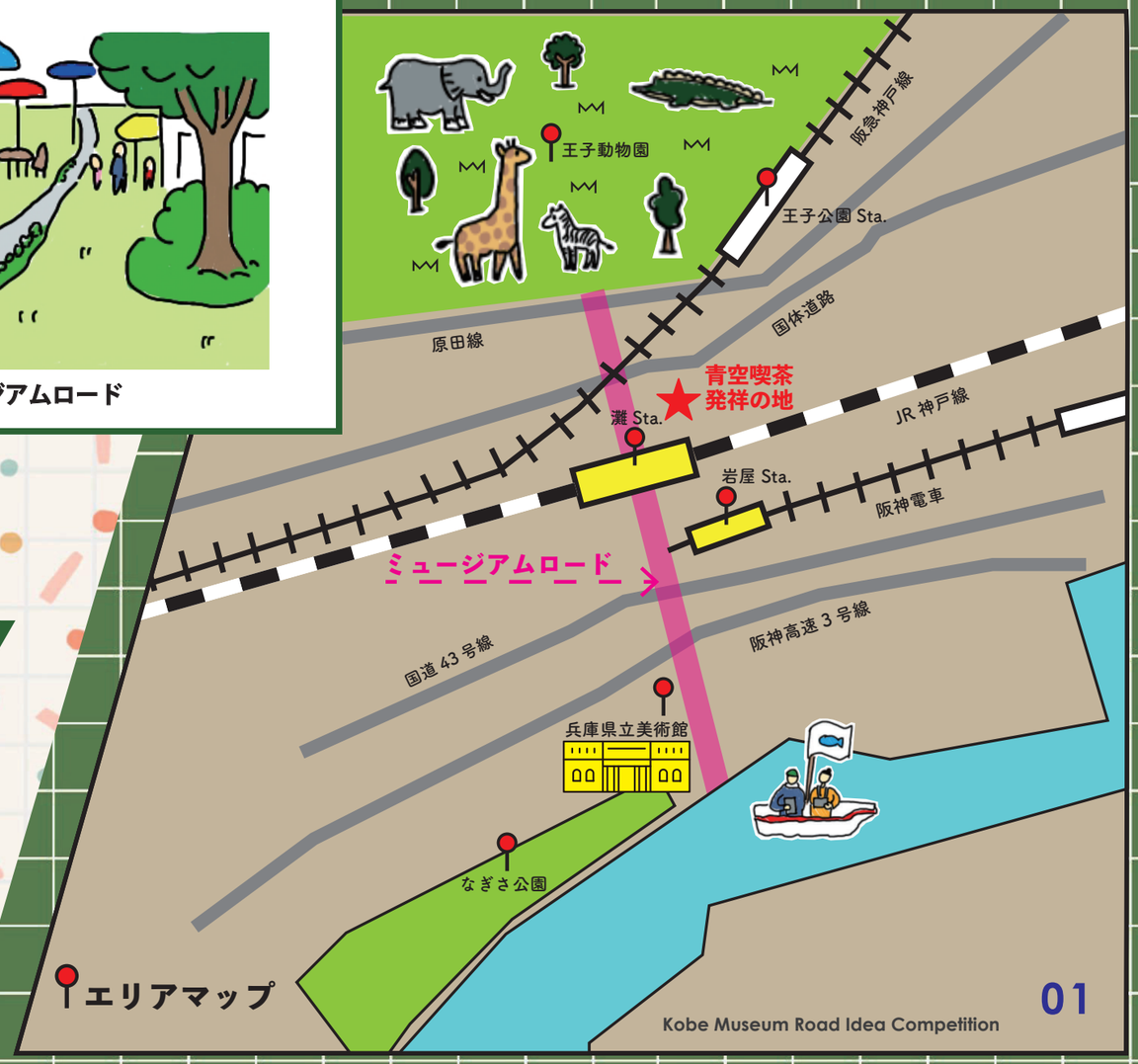
#5

日常の風景として溶け込むミュージアムロード

Hack the Street, Change the City

～喫茶店マスターの気まぐれアクション１杯のコーヒーから、街は勝手に育ち始めた～

この構想は、未来の完成図を決めるための計画ではありません。
誰かが椅子を置き、誰かが腰をかけ、少し話して、少し何かをして帰っていく。
そんな小さな出来事の積み重なりが、気づけば、まちの風景そのものを変えていった――
これは、その “変わり方” を描いた提案です。



エリアマップ

Future Timeline 2025-2045

#Hack the Street, Change the City

各フェーズで転機となった市民のアクション

2025〜2030〜

2025 06 「Sysmex Kobe Ice Campus」誕生
HAT 神戸に通年型アイススケートリンクが誕生

2025 07 JR 灘駅南駅前広場リニューアル
【灘の森テラス】:「美術館のまち」のエントランスと
「地域のアウトドア・リビング」が融合した、
アートと緑溢れる空間が誕生

2025 12 青空喫茶がスタート
「喫茶たまいち」マスターの気まぐれで
月 2 回の青空喫茶が始まる
喫茶店常連で旧友の芸術家たち、
親族の溜まり場になり、
人と街が緩やかにつながる開かれた憩いの場として
日常に小さな豊かさを生む拠点作りが始動

2026 09 芸術家たちによる共同活動が誕生
青空喫茶発祥の市民芸術集団
「AOZORA Collective(AC)」の活動が開始
その輪は次第に広がり始める

2027 08 王子動物園のリニューアル
第一弾として、 キリン、 シマウマ、 カバなど
複数の動物種を見通せる「通景」で臨場感を演出した
「アフリカサバンナゾーン」、 生息地別に世界の爬虫類を展示し、
多様な環境を再現した「爬虫類館」がオープン

2028 06 First Lawn Movement(第一次芝生化)
青空喫茶の周りに、 市民が持ち込んだ小さな芝生マットが
点在し始める。 次第に、 子供が寝転び、 誰かが靴を脱ぎ始める。
整備ではなく、 市民の気分とアクションから空間が変わり始めた瞬間。

2029 04 関西学院大学「王子キャンパス」が完成
「自分で、 みんなで。 未来を起動するオープンイノベーションパーク」
国際化、 産官学民連携、 デジタルを徹底的に強化した
4000 人規模の新しい学びの場として誕生

2029 09 AC による初作品の発表
青空喫茶発祥地に代表オブジェ《ひと席 (One Seat)》の誕生
これを皮切りに様々な場所で作品が展開

2029 11 AC による実験的活動の開始
AC は毎月「路上編集 DAY」を実施し、 ミュージアムロード沿いで
実験的な活動を開始
活動がひとつの風景として重なり始める
代表的な活動) 小さな作品の展示、 読書、 お絵描き、 ガーデニング

2030 04 新スタジアムのオープン
アメリカンフットボール、 陸上競技などが可能な
400mトラック (4 レーン) と
3000 席程度の観客席を完備

2030 10 青空喫茶の流行・普及
周辺の環境再整備、 スタジアム来訪者の回遊により、
青空喫茶の風景が一気に広域へ拡散する
周辺の喫茶店、 飲食店、 カフェで青空喫茶が流行し
町の名物として普及する

2031 04 AOZORA Campus Collective(ACC) の誕生
関西学院大学にて芸術サークルの誕生
のちのミュージアムロード芸術祭の学生部門を担う
大学生主体の表現集団
「路上編集 DAY」の模倣から始まる
「まちを支える若い手」が日常に組み込まれる

2032 04 花見の名所として知れ渡る
青空喫茶の普及がきっかけ

2033 07 ACC による活動の拡大
「青空読書サークル」「青空お絵描きサークル」
などサークルが派生
路上リサーチ班、 路上インスタレーション班等
活動も細分化されていく

2034 09 第 0 回路上芸術祭
AC 発案 ACC サポートの
「勝手に」「自由に」がテーマの非公式芸術祭
「勝手に活動」「勝手に展示」
場所や手法にとらわれない表現の場として成果をあげる

2034 11 Second Lawn Expansion（第二次芝生化）
First Lawn Movement によって可視化された
「人が本当に集まる場所」「人が寝転ぶ場所」
「立ち話が生まれる場所」をもとに、
芝生が恒常的な公共空間として整備・拡張される。

2035〜

2035 09 第 1 回ミュージアムロード芸術祭
路上展示、 即興演奏、 青空喫茶、
芝生の居場所が一体化し、 まち全体が
”歩いて体験する展示空間”のキャッチコピーで
毎年の恒例イベントとなる

2036 03 庇やキャノピーの設置
街の中に居場所が作られるように、
芝生の上への庇、 キャノピーの設置が普及していく

2036 08 夜の動物園「ナイト Zoo」の開催
ACC 考案、 昼とは異なる動物たちの生態や活動を
観察できる夜間開園イベント
「ナイトロード」の先駆けとして、
のちに周辺環境やイベントと連動し、
夜の回遊性と滞在性を高める拠点となる。

2037 06 ストリートファニチャーの誕生
地元の家具屋さんが庇の下に家具を置き始める
その数は次第に広がる

2038 02 ACC 初期メンバーによるカフェが開業
AOZORA Campus Collective(ACC) 初期メンバーが、
ミュージアムロード沿いにカフェを開業
青空喫茶の思想は、 初めて”生業 (なりわい)”として根づく
学生、 市民、 作家、 訪問者が交差する交流拠点となる。

2038 08 ナイトロード開幕
ナイト Zoo と連携し、 芝生のゾーンを舞台に、
音・光・滞在が優しく滲み出す「静かな夜の回遊」が始まる。
夜のミュージアムロードは、 特別なイベントではなく、
“静かに過ごしていい日常の夜”として定着し始める
ナイトバル、 路上シアターなど

2038 11 庇・ストリートファニチャーの拡散
芝生の上に広がる庇・家具、
また市民による自由な活動が当たり前の風景になる

2039 04 教育連携プログラム始動
芝生は「居場所」から「学びの場」へ
まち全体が学びの場となる教育連携プログラムが始動
保育園・小中高・大学 (ACC)・市民 (AC) が連動し、
芝生や青空喫茶を舞台にした
「教室の外で学ぶ日常型プログラム」が本格始動

2040〜

2040 11 ACC による地域イベントの展開
「絵画巡りツアー」「芝生の読書会」など
教育連携プログラムの延長で、
市外からも人を呼び込むようなイベントが盛んになる

2041 09 共同美術館の誕生
AC 活動 15 周年記念で、 共同美術館が open
青空喫茶のスタートから、 現在に至るまでの歴史や
街中にある象徴的なオブジェを紹介
運営は ACC 卒業生

2041 12 日常への定着
芝生の上で、 大学の授業、 子供向けワークショップ、
即興演劇や読書会が自然発生的に行われる。
芝生が、 教室・舞台・居間
全てを兼ね備える場所になる。

2043 04 ミュージアムロードの OPEN STREET 化
First Lawn Movement から始まった地面の変化は、
Second Lawn Expansion を経て芝生と滞在が日常となり、
ミュージアムロード全体が
OPEN STREET（開かれた道）へと移行する
かつて車のための通過路だった道は、
いまや、 芝生、 ひと席、 青空喫茶、 芸術祭、
ACC 世代の活動が重なる

2044 04 人が育ち、戻ってくる街へ
かつて青空喫茶に通った子供達が、
今度は運営側として参加するなど、
芝生は「若者の場所」でも「子供の遊び場」でもなく、
世代を超えて引き継がれる”地面の文化”になる

2044 09 「灘モデル」、他都市へ波及
First/Second Lawn の考え方、
青空喫茶、 AC、 ACC、 芸術祭の仕組みが、
全国の大学・地方都市に応用され始める
次世代へ引き継がれる都市文化

2045 04 王子動物園完全リニューアル

1935年～2010年頃

1935 年頃の
ミュージアムロード

1981 年頃の阪急線

2008 年頃の
ミュージアムロード

2009 年頃の灘駅

2045年

#勝手に囲碁倶楽部

小さな机をセッテングすれば、勝負の開始！
集まっても、集まらなくてもいい、
高齢者から子供まで活動時間、場所、
メンバーは勝手にどうぞ。

#参加型青空ラジオ

芝生に座ると、自然の中に心地よい BGM が
聴こえてくる。小さなマイク 1 本で、
誰でもラジオパーソナリティに。
マイクの周りに輪が広がる。

#垂れ流し路上シアター

上演時間も開演ベルもない、
たまたま始まり、たまたま終わる路上の劇場。
芸術は「観に行くもの」から、
「たまたま出会ってしまうもの」へ。

#オープンキッチン

誰かが鍋を置き、誰かが野菜を切り、
誰かが匂いにつられて立ち止まる。
作る人と食べる人の境界がゆるやかに溶けあい
スープ、パン、コーヒーの匂いで
街を歩くと存在が漂う。

#小さな芝生探検

裸足、寝転ぶ、転がる、においをかぐ。
小さな旗を立てて自分の基地を作る。
自然との関わり、共生を学ぶ教育プログラム。

#わたしの青空喫茶

折りたたみの机、紙コップ、お茶、
水で子供の青空喫茶を 1 日限定でオープン。
商売・コミュニケーション・責任感を体験する
教育プログラム。

Welcome to Nada Town in 2045

2045 年の未来 MAP

商店が立ち並んでいたパンダストリート、時代は巡り、
青空喫茶。芝生に座ること。読書会。絵を描く時間。
路上のシアター。夜のミュージアムロード。
駅前に生まれた、ひと席。
どれも、誰かがやってみた“過ごし方”が、少しずつ、
まちに残っていただけでした。
賑わいは創るものというより、
にじむように現れるものだったのだと思います。

快くお話してくださった、 喫茶たまいち夫妻へ感謝申し上げます。 ご清聴いただきありがとうございました。